

木造棟と庭園

博物館の建物は、19 世紀の終わりに解体されるまでここにあった豪華な居住区と政庁（表御殿）の部分的な復元として 1987 年に建設された。博物館の展示スペースと保存庫は鉄筋コンクリートで再建されたが、外観、居住区、および庭園は、江戸時代（1603～1867）にまで遡るさまざまな書類、図と写真に基づいて、歴史的に正確な技術と素材を使用して復元された。藩主がかつて住んでいた建物エリアは、約 4 世紀前と同じように、今の世に出現したのである。

会議に出席したり、他の公的業務の仕事がなかった時には、藩主は用意されていた政庁内の 2 つのエリアで休むことが多かった。そこは御休所と個人的な茶室であった。大名は日常生活の大部分を茶室と庭を眺める書斎がある住居の一部である御座の御間で過ごした。藩主が彼の居住区に戻るときは、政庁（表）と住居（奥）に接続する扉である御鎖口（おじょうぐち）を通り抜けた。この御鎖口の通過は厳しく制限されていた。原則として、武士や他の役人たちは藩主が住む奥に立ち入ることは許可されていなかった。